

すばらしき“みえ”

FOR NICE COMMUNICATION

2026.4

251号

■特集／三重の地域鉄道

●いま、グループネット／劇団花さつき ●みえを歩こう／津市安濃町 連部・今徳・妙法寺付近



地域の足として走り続ける

三重の地域鉄道

三重県と岐阜県の沿線7市町が連携して応援 養老鉄道 養老線

養老山地が雪化粧したころ、「桑名」駅で養老線に乗り込み、のどかな風景を眺めていると、自転車を持ち込んだまま乗車する人を見かけました。沿線には「上げ馬神事」で名高い多度大社や「養老公園」など、サイクリングに適した観光名所も多いことから、無料で自転車を乗せることができる



「西大垣」駅構内



「柘酒列車」※



「サイクルトレイン」※



日本酒とおつまみ弁当※

市町で設立された「一般社団法人養老線管理機構」ですと教えてくれるのは、「養老鉄道株式会社」鉄道営業部総務企画課の

時ごろまで。先頭車両から2両目が利用可能)を実施。また、7駅ではレンタサイクルも行われています。ゴトツトン、ゴトツトンと心地よいリズムに揺られていると、いつの間にか県境を越えて岐阜県へ。終点の「揖斐」駅までの距離は、57.5キロメートルあり、平成31(2019)年には全線開通100周年を迎えました。

「現在、運行は「養老鉄道株式会社」が行っていますが、鉄道施設や車両の保守管理費用を負担しているのは、沿線の7市町で設立された「一般社団法人養老線管理機構」ですと教えてくれるのは、「養老鉄道株式会社」鉄道営業部総務企画課の

小林 峰生さん

「養老鉄道株式会社」TEL 0584-7813400(平日9時から17時30分)

お問い合わせ

※印の写真は取材先から提供していただきました

小田 峰生さん



小田 峰生さん

中村 真由美さん



中村 真由美さん

地域鉄道とは、新幹線や在来幹線、都市鉄道以外の鉄軌道路線のこと、一般的にはローカル鉄道とも称されます。国土交通省によれば、令和7年4月1日現在の地域鉄道事業者は98社で、そのうち三重県内を走る路線を運行するのは5社となっています。

養老山地を背景に、力強く走る養老線

二人三脚で、地域住民の暮らしや経済をささげる

三岐鉄道 三岐線 北勢線

【四日市市富田】



桜満開のころの三岐線「伊勢治田(はった)」駅※

令和3年に開業90周年を迎えた「三岐鉄道株式会社」は、現在、三岐線と北勢線の2路線を運営しています。このうち、三岐線の旅は「近鉄富田」駅から始まります。3番線ホームから発車した途端、ゴトンッ、ゴトンッという音とともに、学生たちの元気で明るい声に包まれました。近くに高等学校があり、通学の足として重宝されています。しばらくの間、

車窓から見えるのはマンションなどが中心ですが、やがて田園風景が目立つようになり、山並みも迫ってきました。同駅から終点の「西藤原」駅までの距離は27・6キロメートル。所要時間は50分程度ですが、途中で「いなべ市大安図書館」が併設されている「大安」駅や、「貨物鉄道博物館」が傍らに建つ「丹生川」駅などに加えて、「東藤原」駅通過後には「太平洋セメント株式会社藤原工場」の迫力ある施設を間近にすることもでき、充実した時間を過ごせました。

「三岐線は、藤原岳から算出する石灰岩を原料としたセメント輸送が設立目的の一つでした」と話すのは、「三岐鉄道株式会社」総務部総務課の日紫喜 茂係長です。日紫喜さんからは、同一の貨物で往路と復路で異なる荷物を運ぶなど、地球環境に優しい輸送を行っていることも教わりました。また、

曜日によって利

内には3路線のみとなり、北勢線も一時は廃線が決まっていたましたが、沿線住民や地元自治体からの強い要望に応え、「三岐鉄道株式会社」が運行しています。平成26(2014)年には開業100周年を迎え、季節イベントなども積極的に実施。たとえば11月中旬から12月25日までの期間は、クリスマス仕様でラッピングされた「クリスマストレイン」が走ります。



日紫喜 茂さん

用可能な駅は異なりますが、無料で自転車を持ち込める「サイクルパス」もっています。

一方、北勢線に乗り車するために「西桑名」駅に向かうと、小さな車両に目を奪われました。車内で向かい合わせに座る人との距離が近いのを実感します。同線は、線路幅の狭い簡易な規格で建設された軽便鉄道として誕生したため、レール間隔はわずか762ミリメートル。JR在来線の1067ミリメートルより狭い(ナロー)ため、「ナローゲージ」と称されます。現在、ナローゲージは国

総距離20・4キロメートルの北勢線の車窓からは、のどかな田園風景の先に連なる鈴鹿山脈を一望できるほか、地元産

野菜などをお値打ちに販売する「ふれあいの駅うりぼう」が併設された「大泉」駅など、個性的な駅もあります。終点の「阿下喜」駅のすぐ隣には「軽便鉄道博物館」(第1・3日曜日開館。入館無料)があり、開館日のこの日は親子連れで賑わっていました。

2路線の沿線には、名所・旧跡も数多く存在します。春風に誘われて三岐鉄道の旅を満喫してはいかがでしょうか。

お問い合わせ

「三岐鉄道株式会社」
TEL 059-364-2141



麦畑の中を縫うように走る三岐線※



地域の資源を運搬する貨物列車※



地域住民にも鉄道ファンにも愛される北勢線※



「クリスマストレイン」※



「三岐鉄道株式会社」本社

※印の写真は取材先から提供していただきました

鉄道少年の夢をはぐくむ

特定非営利活動法人

貨物鉄道博物館

〔いなべ市大安町〕



明治から昭和まで活躍した英国製のB4型39号蒸気機関車

三岐鉄道三岐線にガタンゴトンと揺られ「丹生川」駅に降り立つと、駅舎隣の広場には、大勢の人が集まっています。この日は一か月に一度の「貨物鉄道博物館」の開館日。キッチンカーが何台も並び、子ども連れのファミリーや中高生らしい若者たちなどの鉄道ファンが三々五々楽し気に語らって、お祭りのようににぎわっています。

車のイラストが描かれた建物の中には、貨物鉄道に関わるさまざまな展示のほか、鉄道模型が走っているジオラマやグッズの販売コーナー、昔懐かしい木のベンチが並ぶイベントスペースなどがあり、こちらも盛況。外の線路際には、蒸気機関車や現存する最古級といわれる貨車の実物がずらりと並んでいます。

ここは、貨物鉄道を対象とする日本では唯一の博物館。明治6（1873）年にはじまった鉄道による貨物輸送の130年を記念して、平成15（2003）年に開設されました。

館長の吉田雄一さんとスタッフの渡邊宏光さん、新山仁さんにお話を伺うと、「この建物は、元は隣接する三岐鉄道と接続する貨物荷卸場でした。トラック輸送などが一般化する前は、多くの生活物資や地産品が鉄道で輸送されており、この場所からは主に農業用肥料が出荷されました。」



館長の吉田 雄一さん

た」とのこと、壁に掛けられたさまざまな貨車の展示を見ると、現在よく見かけるコンテナ型やタンク型の貨車のほか、野菜用に通気を良くした貨車や冷蔵車、家畜用など、載せるものに合わせてさまざまな形の貨車が工夫され、使われていたことが分かります。

模型の列車の横には、子どもたちに説明する駅員さんの服装に身を包んだ男



鉄道が大好きなボランティアスタッフたち

性たち。「現在の運営は、すべてボランティアのスタッフと寄付で行われています。制服姿の人たちも、私たちもボランティアスタッフで、服や模型も私物なのですよ。」

入り口横には、黒い蒸気機関車がどっしりと存在感を示しています。「これは日本鉄道が発注した蒸気機関車で、明治31（1898）年英国のシャープスチュワート製。明治39（1906）年に国有化され、大正11（1922）年に東武鉄道B4形39号となり、昭和41（1966）年

に引退するまで貨物列車牽引に活躍してきました」。その他、最近クラウドファンディングで資金を集めて現役時の姿に復元された貨車「テワ1型1号」など、いずれも日本の発展をささげて、力強く走ってきた機関車や貨物車の現物が並んでいます。

時折開催されるイベントも大人気。ウェブサイトなどでご確認ください。

お問い合わせ

「特定非営利活動法人
貨物鉄道博物館」事務局
（三岐鉄道株式会社内）
TEL 059-364-2141



横溝 英一氏のイラストが楽しい外観



館内には多彩な展示も



模型スペースの周りには少年が集まる



機関車に乗り込んで鉄道員になりきる



「テワ1型1号」など貨車も多数

明日に向かって進化し続ける。市民の足

四日市あすなろう鉄道

内部線 八王子線 〔四日市市安島〕



車体カラーは、四日市市の豊かな自然をイメージした「なろうグリーン(写真)」と「なろうブルー」の2種

ゴトゴトと心地よく響く、独特の体感と走行音。全席窓側で車窓からの景色を楽しめる「二人掛けシート」や、子どもが握りやすい高さに設置されている、双方利用が可能な「ハート型」の持ち手など、乗客への細かな気配りが随所にみられる車内。現役の鉄道では全国で3事業者のみになった、貴重なナローゲージ(線路幅が762ミリメートル)の特殊狭軌が特長である「四日市あすなろう鉄道」。四日市市の市民の足として110年以上の歴史を紡いでいます。

大正元(1912)年、
軽便鉄道として「日永」

誕生したのが「四日市あすなろう鉄道株式会社」。近鉄と四日市市がそれぞれ出資する第三セクター鉄道で、公有民営方式により運営し、令和7年4月に開業10周年を迎えました。明日に向かって進むという未来への希望と、ナローゲージに由来して名付けられた「四日市あすなろう鉄道」は、生活をささえる公共交通の役割をベースに、さまざまな工夫で利用者増をめざしています。

れ、幻想的な雰囲気を楽しめます。平成31(2019)年に導入された「シースルー列車」は、床面の一部を透明化することで、枕木、ナローゲージの車輪が動く様子や、「日永」駅では、日本で唯一のナローゲージ分岐点を上から眺めることができ、鉄道ファンの心を掴んでいます。また、「デジタル駅スタンプ」やポイントラリー、乗車体験会、カフェ列車など、地域に密着したさまざまなイベントが開催され、利用促進だけでなく地域活性化の基盤も担っています。また、四日市市ふるさと応援寄付金の返礼品として行っている「1日駅長体験」や「貸切列車」、高校入学試験当日の



デザイン性と機能性を兼ね備えた「ハート型の持ち手」



「日永」駅の「スリーゲージモニュメント」



「イルミネーション列車」車内※



「シースルー列車」車内※



「1日駅長体験」※

往復運賃が無料になる「高校入試応援キャンペーン」などが好評です。地域住民や沿線に通う学生の生活に欠かせない交通手段でありながら、市の観光資源でもある「四日市あすなろう鉄道」。市民とともに育てていく鉄道として、これからも利用者の安全確保と利便性の向上、四日市市のまちづくりへの取り組みのために前進し続けます。

*「デジタル駅スタンプ」は、株式会社ジェイアール東日本企画の登録商標です。

お問い合わせ

「四日市あすなろう鉄道株式会社」
TEL 059-351-0688

駅から「八王子村」駅(のちの「伊勢八王子」駅)間で開業。その後、順次区間が広がり、内部線がスタートしました。昭和49(1974)年の集中豪雨による天白川の洪水により「西日野」駅から「伊勢八王子」駅間が廃止され、現在の「内部線(あすなろう四日市)駅」と、「内部線(あすなろう四日市)駅」から「内部線(あすなろう四日市)駅」の2路線になっています。利用者減少などによる廃線の危機を乗り越えて、平成27(2015)年4月に



四日市市 都市整備部 都市計画課 公共交通推進室 杉村 圭亮(けいすけ)さん
四日市市 都市整備部 都市計画課 副参事 公共交通推進室 室長 藤田 貴(たかし)さん
四日市あすなろう 鉄道株式会社 総務企画課 サブチーフ 東快成(あずまかいせい)さん
四日市あすなろう 鉄道株式会社 鉄道営業部 運輸課 運輸管理所長 長谷川 一樹さん

※印の写真は取材先から提供していただきました

四季折々の景色を楽しめる単行列車

伊勢鉄道 伊勢線

【鈴鹿市桜島町】



のどかな田園の中を一両で走る*

田園風景の広がる伊勢平野を走る一両の列車。「伊勢鉄道」は昭和62(1987)年に開業し、来年40周年を迎えます。国鉄の民営化にともない廃止対象路線となっていた旧国鉄伊勢線を引き継ぎ、三重県をはじめとする自治体と民間企業が出資して設立された第三セクターの鉄道会社です。路線は「河原田」駅から「津」駅までの22.3キロメートル。河原田と津を合

わせて10の駅があり、その区間を約30分で結んでいます。「ワイドビュー南紀」や「快速みえ」などJRの長距離列車が乗り入れ、三重県の中勢・東紀州地域と名古屋地域を結ぶバイパスとしての役割を担っています。毎日、朝5時台から夜11時台まで運行し、1日の利用者は約4000人。その多くは沿線の住民で、通勤・通学に欠かせない地域に密着した鉄道です。一方、鈴鹿サーキットに最も近い鉄道の駅も有しており、F1や8耐の期間中は大勢の人で賑わいます。

「伊勢鉄道」の魅力といえば、まずは車窓からの眺めです。路線の大半が高架または盛り土された区間を走行しているため、見晴らしがよく、美しい景色が楽しめます。特に伊勢平野に広がる田園風景は、春は水鏡、初夏は緑の絨毯、晩夏には一面の黄金色…。折々に田植えや稲刈りのようすも見られ、季節感を味わえます。また遠くに見える伊勢湾や鈴鹿の山々、四日市のコンビナートなどさまざまな三重ならではの風景を楽

しめます。

「伊勢鉄道」は、非電化の路線のため、現在運行しているのは1両編成の気動車(ディーゼルカー)「イセIII型」のみですが、その車両にも特長があります。ローカル線というとのんびりしたイメージがあるかもしれませんが、「伊勢鉄道」は、河原田・鈴鹿、河芸・東一身田は時速100キロメートルを超える速さで走行します。これはかつて国鉄伊勢線として設計された高規格や直線路線があり、乗り入れするJR特急と連携した速達性を重視しているためです。1両編成で時速100キロメートルを

出す非電化のローカル鉄道は全国でも珍しいといえるでしょう。また車両はバスの設計を鉄道車両に応用したワンマン気動車で、1両で前後両方に運転台があるのもローカル線ならではです。

鉄道の利用を促進するためにさまざまな取り組みも行っています。例えば、第三セクター鉄道等協議会が主催する御朱印帳の鉄道版「鉄印帳」に参加しており、「鈴鹿」駅で伊勢型紙の技法を活かしたオリジナル印(デジタル鉄印もあり)を販売しています。また、みえ応援ポケモン「ミジュマル」がデザインされ

たラッピング車両もあり、年1〜2回グリーティングイベントを実施するとたくさんの親子連れでにぎわうそうです。「これから先も地域密着の鉄道会社として、地域住民の移動手段を守っていきたい」と語る取締役の石野 雅美さん。地域の生活になくてはならない路線として、今日も走り続けています。



伊勢鉄道株式会社 取締役 石野 雅美さん

お問い合わせ

「伊勢鉄道株式会社」
鈴鹿市桜島町1丁目20番地



地元住民の貴重な移動手段



4両を所有している



車内のようす



整備中の車両



鉄印(デジタル)※



鉄印(紙)※

*印の写真は取材先から提供していただきました

忍びのまちを忍者列車が走る

伊賀鉄道 忍者鉄道

【伊賀市上野】



忍者列車の横にはかわいいネコのイラストが ©松本零士／零時社

古い家並みが残る伊賀の町を、忍者列車が走ります。鋭い目つきで、前傾姿勢で走る忍者を思わせ、強いインパクト。大正ロマンを感じさせる駅舎やレンガの跨線橋などのレトロな風景と絶妙なコントラストです。「忍者列車が登場したのは平成9（1997）年からで、漫画家の松本零士さんのデザインです。青・緑・ピンクの3色の忍者列車があり、緑色は木育トレイン」となっていて、車内に三重県産の杉

が使用されていますよ」と教えてくださったのは、伊賀鉄道鉄道営業部 総務企画課 課長補佐の中村 光宏さん。平成19（2007）年に近畿日本鉄道から運営が移管されて伊賀鉄道となる以前からここに勤務されている、生え抜きの伊賀鉄道マンです。



中村 光宏さん

忍者列車以外にも、伊賀鉄道のキャラクター「ふくにん」が描かれたふくにん列車や、シルバーに赤いラインの入った車両も走っています。網棚の隅に小さな忍者が潜んでいたりと、「上野市」駅（愛称：忍者市駅）のコインロッカー上にはとびかかってきそうな忍者がいたり、電車や駅の随所に、これでもかといわんばかりに乗客を楽しませるサービス精神があふれています。

「この路線が開通したのは大正5（1916）年と古いのですよ。初めは、上野駅連絡所（現在の関西本線伊賀上野」

駅」と「上野町」駅（現・「上野市」駅）とを結んでいました。大正11（1922）年に庄田駅現・伊賀神戸駅（現・伊賀市）を含む路線が開通し、今もJR「伊賀上野」駅から伊賀市

の中心部を通って近鉄「伊賀神戸」駅を結び、市民の足としても、観光に來られる方々にも親しんでいたれています。通勤や通学のほか、インバウンドの観光



大正時代に建った「上野市」駅の駅舎



木育トレインの網棚には小さな忍者が



線路上を走る軌道自転車※



フクロウの忍者「ふくにん」の列車



運転シミュレーション※



「花火鑑賞列車」で絶景を※

客の中には、忍者列車に乗ることを目的に來られる方も多いのだとか。「忍者列車から、忍者の装束に身を包んだお客さまが大勢降りてくる、というようなことは頻繁にありますよ」とのこと。伊賀市が世界的にニンジャのまちとして知られているのが実感されます。

「開業当時は蒸気機関車でしたが、大正15（1926）年に電化され、今年は今電化100年の記念すべき年に当たりますので、毎年5月3日に行っている『伊賀線まつり』は盛大に行う予定です。車掌体験や運転シミュレーション、軌道自転車などの体験のほか、他社のグッズ販売などもあり、毎年好評の催しです。ほかにも車内でスイーツを楽しむ「甘いもんどれいん」や、鉄橋の上に列車を停めて特等席で見る「花火鑑賞列車」など、大人気の企画もあります。ウェブサイトなどでご確認のうえご参加ください。

お問い合わせ

「伊賀鉄道株式会社」

TEL 0595-21-0863

※印の写真は取材先から提供していただきました

劇団花さつき

三重県鈴鹿市を拠点に活動する市民劇団「劇団花さつき」。現在は6名の子どもを含む15名で活動しています。鈴鹿の歴史や伝統産業、文化、伝説、昔話などをテーマにした、年1回の定期公演開催を活動の中心にし、高齢者・養護施設などへの慰問を行っています。また、鈴鹿市社会福祉協議会のボランティア団体として各ボランティア活動にも積極的に参加。多くの人と交流することで、鈴鹿市の芸術文化向上に寄与しています。



代表・制作担当
長谷川 祐美子さん

お問い合わせ

「劇団花さつき」
TEL 090-9276-9996

20周年記念公演「鈴鹿のはじまり」私たちが出会った、「鹿」が令和8年1月31日、2月1日にハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿で開催されました。鈴鹿市の誕生を、市のマスコットキャラクター「ベルディ」からヒントを得て、「劇団花さつき」が脚本・演出したオリジナル作品です。その稽古で出演者が揃い、熱心に演劇に励むなか、合間を縫って代表の長谷川さんにお話を伺いました。

——活動を始めようとしたきっかけを教えてください

長谷川：第58回カンヌ国際映画祭で特別上映され、国内外で注目された小栗康平

——お仕事や学業と両立されている方も多いと思いますが、練習や活動はどのようになさっているのでしょうか

長谷川：練習は毎週土曜日に白子周辺で集まって行っています。団員は10代の若者から80代まで年代が幅広く、それぞれ仕事や学業があるので、活動はその日に参加できる人でできることが何か、を考えて行きます。強制はせず、可能なときはできるだけ参加。活動一つひとつ、団員の発想力でテーマから内容まで決めていき、できることを形にしていこうようにしています。特に、子どもたちがやりたいことを実



高齢者施設での訪問公演の様子※



イベント活動にて※



20周年記念公演関係者の皆さん



20周年記念公演「鈴鹿のはじまり」※

監督の映画「埋もれ木」の撮影が平成16（2004）年5月から3か月間にわたり鈴鹿市で行われました。翌年の上映をきっかけに、その撮影に関わった一部のメンバーで「今後何か出来ないか？」と、平成17（2005）年に結成したのが始まりです。設立当時の鈴鹿市では演劇に親しむ機会が少なく、芝居を演じる楽しさや創る楽しさ、観る素晴らしさを沢山の方々に知ってほしいと思ったのです。鈴鹿市の市の花「サツキ」を劇団名に付けました。

——年1回の定期公演のほか、具体的にどのような活動をされていますか

長谷川：高齢者施設や養護施設、幼稚園や保育園、各自治体のイベントなどに出向き、何う場所に合わせて歌や踊り、朗読劇、現する場でありたいとも思っています。また、団員以外に「団友さんと呼んでいる公演や裏方の仕事、活動を手伝ってくれる協力者の方々がいます。団友さんの協力に感謝しながら、さまざまな活動に取り組んでいます。

——活動のなかで意識していることはありますか

長谷川：私たちの活動は、「楽しみながら芸術文化の向上をはかる」という理念のもとに行っています。多くの人と交流をはかり、もっと鈴鹿を知ってもらい、興味を持ってもらえたら嬉しいです。演

演劇を交えた体操などを年10〜20回ほど行っています。社協さんのボランティア活動としては「赤い羽根共同募金」や「ふれあいまつり」のお手伝いなどへ参加しています。令和4年からは、三重県SDGs推進パートナーとしての取り組みに沿って、演劇やワークショップなどを通じた17項目の達成にチャレンジしながら活動の幅を広げています。また、鈴鹿亀山消費生活センターと連携し、演劇を通じた特殊詐欺啓発のための巡回公演も定期的に行っています。



創立メンバー
長谷川 廣(ひろし)さん



創立メンバー
蘭部 きよえさん

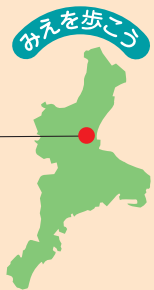
劇を通じて色々な考えを持つ人がいることを知ってもらい、相手を思いやる気持ちを持つこと。それが「犯罪の少ないまちづくり」に繋がると考えて活動しています。

また、私たちは仕事で培ったスキルやノウハウを活かして社会貢献する活動。プロボノを2年前から取り入れています。私を含め2名が看護師なので、認知症や精神障害疾患を持つ方への対応や傾聴などの団内講座を開き、公演に役立てています。ほかにも着付けやハンドベル講座など、活動に必要な教養講座を開き、常に向上心を持ち、楽しみながら活動することを心がけています。

——皆さんが団結し、目的をもって活き活きと練習に励む姿がとても印象的でした。ありがとうございました。

インタビュアー：大島千佳

※印の写真は取材先から提供していただきました



山と川と田園の風景に
歴史を感じながら

津市安濃町 連部・今徳・妙法寺 付近

津市安濃は歴史の深い場所。古代の遺跡や平安時代の社寺、中世の山城、江戸時代の物語などさまざまな歴史が重なっています。その重なりを包み込むように、穏やかな山川と田園が織りなすのびやかな風景が広がっています。

今回は、津市安濃町の南部、村主小学校南門前から出発し、穴倉川を渡って県道411号を歩き、丘の上の大市神社に上り、川の対岸に広がる田園の中を通過してスタート地点に戻るコース。神社の石段以外は平坦で歩きやすい道です。

取材 文：堀口裕世

至近距離に3つの時代

津市立村主小学校南門前の広場で待ち合わせて、スタート。門を背にして右側・南西の方向に歩き始めます。歩き始めてすぐ、最初の信号の手前で小林会長が立ち止まりました。「今は埋め戻されていますが、ここは『ゆふけ遺跡』です。ここでは、縄文時代後期の土器や竪穴式の住居跡などが発見されています。この付近には古い住居跡などがたくさんあるのです」。

古代の遺跡に思いを巡らせながら信



土器などが見つかった「ゆふけ遺跡」



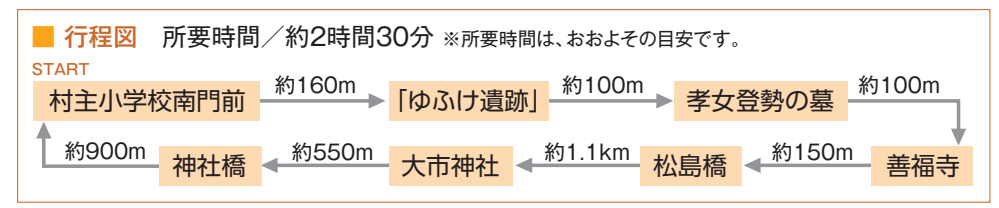
「孝女登勢の墓」



善福寺



毘沙門天立像の収蔵庫



号を渡ると、今度は右手の細い道に入り、「孝女登勢の墓です」と坂中さん。「江戸時代に実在した女性で、さまざまな苦勞を乗り越えて養父母に尽くしました。その話が当時の藩主・藤堂高兎公に伝わり、米などのほうびを賜り、その後も年貢のかからない田畑を与えられたということなんです」との解説を受けて、「天保11(1840)年に登勢が亡くなると、郡奉行だった平松樂斎の進言で、家の敷地内にこの墓を建てました。昭和16(1941)年には県の指定史跡となり、明治35(1902)年には津市の偕楽公園にも碑

が建てられています」と前田さん。「親孝行は大事だと、子どものころにはよく聞かされたものです」と話が弾みます。お墓の前の路地を進んで行くと、善福寺に出ます。「平安時代後期の毘沙門天立像が安置されています」「土の中に埋まっていたのを掘り起こし、このお寺に安置したといわれ、国の重要文化財に指定されています」「年に一度、1月の最終日曜にだけ、ご開帳されます」とのこと。ほんの短い距離の中で、縄文、江戸、平安と3つの時代の物語に出合えま



通称・松島橋を渡る

点在する山城跡を見ながら

善福寺の門前の道に続く、細い橋を通って穴倉川を渡ります。「この橋は通称・松島橋。昭和初期に松島弥三やまさんの寄付でできた橋で、その後架け替えられています。隣にかかる大きい橋は、「連部今徳2号橋」。これを渡ると今徳に入ります。「この付近には、中世の山城跡がいくつもあります。右手に見えるこんもりとした森は連部城跡。もう少し正面寄りの家並みの中、南光寺の裏手には今徳城址



巨大なイノシシの像が目印

の碑があります」。四つ角を左に曲がり、県道411号の側道から本線に入ります。「前に見えるのが長谷山はせやま。昔は櫛形くしがた山と呼ばれていました。真横から見ると櫛の形に見えるでしょう」と説明を聞きながら田園風景の中をしばらく歩くと、大きなイノシシの造り物が飾られている会社の前に出ます。この会社の前にある横断歩道を渡り、右手の細い道を進んで行くと、丘のふもとに出ます。

神社の下の桜並木

この丘の上にあるのは大市神社。一対



大市神社の鳥居と狛犬

の狛犬の間に、長い石段が続いています。「左手奥には、軽トラックが通れる坂道がありますので、階段が苦手な方はこちらからどうぞ」とのこと。「大市神社は、延喜式に載る古い由緒のお社で、もとは別な場所にありましたが、慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いに関連した戦乱で焼失し、この地に祠を建てて再建したといわれています」。石段を上り終え、拝殿前で神様にご挨拶。すると「ここにはあまり知られていない小さな狛犬さんがいるのですよ」と、前田さん。拝殿の左手をめぐって本殿の横に行き板垣



本殿前にひっそりと小さな狛犬が



穴倉川に架かる神社橋



大市神社の常夜灯

の間からのぞくと、社殿の足元に小さなかわいい狛犬が座っていて、ほのぼのとした気分がさせてくれました。

狛犬に別れを告げ、再び石段を下りて、右手に続く道に進みます。「ここはずっと桜並木が続いています。春には本当に見事です」と坂中さん。県道との交差点の角には大市神社の名が入った石灯籠があ

右手に浄土寺南遺跡

川を渡って、田園の中を進む道は、気づかないほど緩やかな下り坂。坂の途中からふたたび連部地区に入り、スタート地点に戻って行きます。

道の右手は広大な田園風景。小林会長が立ち止まり、「この辺りは浄土寺南遺跡といって、あの小高くなっているところから円面硯えんめんいんや緑釉陶器りよくちゆう・土器がたくさん出土しました。奈良時代の建物の遺構や井戸桁なども見つけたり律令制下の郡の役所ぐんが郡衙ぐんがだったのではないかと



見晴らしの良い田園風景の下に遺跡が

いわれています。遠くに森が見えるでしょう」と指をさします。「あれは浄土寺城跡です。織田勢が北畠氏の一族を攻めるために造らせたといわれていますが、定かではありません。見渡す広い田園風景の中に、遠い昔からの歴史が積み重なっているのです。

「浄土寺西公園」の辺りで、道は大きく

問 安濃ガイド会「草陰」

安濃総合支所地域振興課

TEL 059-2668-5511

三重の祭り

国指定・選択 / 県指定・選択

多度大社の上げ馬神事

(桑名市多度町多度)

【開催日】5月4・5日



神体山と仰がれてきた多度山の麓に鎮座する多度大社。しあわせを運ぶ神の馬「白馬伝説」が伝わる馬と関わりが深い神社です。上げ馬神事は、例祭・多度祭で行われる奉納行事。人馬一体となり、境内にある上げ坂を駆け上がる躍動的な祭りです。南北朝時代を起源とし、戦国時代に約40年間中断しましたが、江戸時代に再開。現在も御厨と呼ばれる上げ馬神事を奉納する地区によって奉仕され、時代に合った形を模索しながら現代まで受け継がれています。

問 多度大社

TEL 0594-48-2037

あえくに 敢國神社の獅子舞

(伊賀市市一之宮)

【開催日】1月3日、4月17日、12月5日



創建658年、「伊賀の一宮」として知られる古社・伊賀一之宮 敢國神社。例大祭では、厄よけや五穀豊穡などを願って獅子神楽が奉納されます。武将・藤堂高虎が年頭の祝儀として舞わせていたとも伝わり、江戸期に津藩・藤堂家の統治によって形が整えられました。かつては伊賀全域を巡回し、各地で舞われる獅子神楽の原型にもなっています。赤いシャグマ(毛)を頭全体に被った二頭の獅子が笛太鼓の緩調子にのって「広前」「剣の舞」「鼻高」など7つの舞を披露します。

問 伊賀一之宮 敢國神社

TEL 0595-23-3061

表紙写真 「伊賀鉄道 忍者鉄道」(伊賀市上野) ©松本零士 / 零時社

百五銀行のホームページで、「すばらしき"みえ"」のバックナンバーをご覧ください。
<https://www.hyakugo.co.jp/mie/>